

ハリタイヨウチュウ *Raphidiophrys contractilis* における多細胞化の可逆的誘導

洲崎 敏伸¹, 清水 美里²

(¹神戸大・院理・生物, ²神戸大・理・生物)

【要旨】 太陽虫類は、通常は基底面上で一定の間隔を保った規則的な個体配置パターンを示す。しかし、餌を捕獲する際には、個体配置パターンが変化し、隣り合う細胞が接近するようになる。餌が大型の場合には、多数の細胞が細胞融合し、共通の食胞内に餌を捕獲することもある。さらに、ハリタイヨウチュウでは、培地の成分を変化させることで、直径1～2 mmにも及ぶ、多くの細胞が融合した巨大なコロニーを、人為的かつ可逆的に誘導することができた。この現象は、多細胞化による真核生物の進化のモデル系としても興味深い。